発電についてはＦＩＴを継続する方向で財務（省）と一生懸命やっている。確定的なことは言えないが、うまくいくのではないか。送電の枠が空くのであれば、それを利用できるかもしれない。関係省庁としっかり話をしていかないといけない。

林　十勝は先進的にＡＩ（人工知能）や自動化、ドローン利用が進んでいるとは思う。スマート農業拡大普及の考えは。

◆ＡＩや自動化　共同利用で

江藤　今、実証地域を10カ所弱くらい設けている。私も現場で見せてもらったが、楽しみだ。こういう営農、やり方を導入すれば新規就農は増えるだろう。きつい、汚い、格好悪いではなく、格好良くて効率が上がりもうかるのであれば、頑張った分だけ自分が豊かになれる。農業は働く実感が間違いなくある。

ただ、機材等がまだ非常に高いということもある。取得して皆で共同利用する方向にしないと、各農家で導入するのは難しい。ＪＡが特に頑張ってほしいところ。今のところは条件の良いほ場で実証実験がされているが、いかに条件の悪い地域での汎用（はんよう）性を高めて実装化を進めていくか。ＩＴ化、スマート農業化が、いわゆる条件不利地域の将来への継承に大きく貢献する力を持っていると思っている。

林　ＡＩやスマート農業は若い人に希望を持たせる。自動運転になると、女性も働きやすい。そういう意味でもスマート農業を進めると農業の未来が明るくなる。

江藤　白菜とかキャベツといえば、今まではしゃがんで包丁で切り取るのが常識だった。それが機械で一個一個、個体を映像で判別して根元から切っていく。例えば、加工用の野菜、いわゆる中食（なかしょく）、外食の野菜で、市場を輸入野菜に取られている部分がある。輸出も大事だが、スマート農業やＩｏＴ（モノのインターネット）、機械化を進めることによって、外国に取られている市場を日本で奪還する、その大きな一助になる。

＜えとう・たく＞
1960年宮崎県生まれ。85年成城大経済学部卒。2003年の衆院選で初当選。選挙区は宮崎県第２区。現在６期目。19年９月から現職。